

平成28年度 学力向上を図るための全体計画

東京都 教育目標

- 互いの人格を尊重し、思いやりと規範意識のある人間
- 社会の一員として、社会に貢献しようとする人間
- 自ら学び行動する、個性と創造力豊かな人間

練馬区 教育目標

- 人間尊重の精神を基調とし、学校・家庭・地域社会との緊密な連携のもとに、心身ともに健康で知性と感性に富み、人間性豊かな子どもの育成を図る。

豊玉中学校 教育目標

- 心身ともに健康で自主的に努力する誠実な人となることをめざす

- 1 誠実 2 敬愛 3 努力

学校、地域の実態

- 生徒は素直で明るく朗らかであり、学習・行事・部活動に意欲的に取り組んでいる。開校69年の歴史を有し、保護者・地域の方々は教育活動への関心も高く、協力的である。

期待される生徒像

- 自ら学ぶ意欲をもち、社会の変化に主体的に対応できる心豊かでたくましい生徒。

学校経営方針(学力向上にかかわる要点)

- 教職員一人一人が専門職としての能力を十分に発揮できる学校「授業で勝負できる学校」を創造するために、授業改善に向けた校内研修を充実する。特に指導法や評価の工夫、教材開発については、本校の実態に即した内容で研鑽を深め、授業観、学習観の意識改革を全校体制で進める。

各教科の指導の重点

- 基礎的・基本的な内容を確実に定着させる。
- 生涯にわたる学習の基礎を培う。
- 情報活用能力の育成と環境教育の視点を重視した指導。
- 指導方法や評価方法の工夫・改善。
- コミュニケーション能力の育成。
- 個性の伸長を図ることと多様な能力に応じた興味・関心・意欲の喚起。

道徳教育の指導の重点

- 道徳教育推進教師を中心に心の教育の充実を図る。
- 学校・家庭・地域との連携を図りながら、道徳授業の充実を推し進めていく。
- 勤労と奉仕の精神の大切さを体験的に理解させ、道徳実践力を養う。
- 社会規範を尊重するなどの社会性を育む。

豊玉中学校における「確かな学力」

～基礎的な知識・技能が身につけており、それを活用しながら自ら課題を見つけ、自ら学び、主体的に判断し、行動し、よりよく問題を解決する資質や能力～

[基礎的な知識・技能と主体的に学習する資質・能力・態度]

特別活動の指導の重点

- 自主的・実践的な能力と態度を育てるために学級活動を重視する。
- 生徒会活動、委員会活動、ボランティア活動等の充実、活性化を図る。
- 生命の大切さを理解させ、健康・安全指導の徹底を図る。
- 男女の違いを理解させ、お互いの健康・安全に留意できる生活態度を育成する。

総合的な学習の時間(勾玉タイム)の指導の重点

- 体験的・啓発的活動を取り入れた「生き方学習」を通して「生きる力」を育む。
- テーマ学習(環境、国際理解、福祉)の授業を通して国際感覚を身に付けた生徒の育成を図る。
- 個々の生徒の体験や学びをわかりやすくまとめたり、発表したりする能力を育む。

進路指導の重点

- 主体的に進路を選択する能力や態度を育て、主体的に生きる人を育成し、生涯学習の基礎を培う。
- 発達段階に応じた系統的・段階的な指導を行い、望ましい動労観や職業観を身に付けさせる。
- ガイダンス機能を充実するとともに、情報の適切な選択や活用ができる力を育てる。

授業改善策の検証

- 練馬区、東京都、全国の学力調査の結果を活用して検証する。
- 定期考査、日常の小テスト等を活用して検証する。
- 生徒の自己評価を活用して検証する。

生活指導の重点

- 生徒が将来の社会のよい一員となり、誠実で豊かな生活をつくりあげられるような資質や能力、態度の育成を図る。
- 品格のある人を育てる。豊玉中生としての自覚をもち、自分を律して行動できるように指導する。
- 基本的生活習慣の確立に努める。
 - ・挨拶ができる。
 - ・その場に応じた言葉遣いや服装ができる。
 - ・時間を守ることができる。
 - ・環境美化に努める。

豊玉中学校の授業改善に向けた視点

指導内容・指導方法の工夫

- 理解の状況に応じた個別指導を実施する。
- 興味・関心に応じた課題追求型学習を展開する。
- ICT機器等の活用を図る。
- 言語活動の充実を図る。

教育課程編成上の工夫

- 朝の10分を活用し、継続的に読書活動を行い、豊かな人間性を育成する。
- 放課後の時間を活用して、補習や補講を随時行い、基礎学力の向上を図り、学習意欲を高める。

校内における研究や研修の工夫

- 全教員が年間1回以上行う授業研究を通して、教員の資質の向上を図る。
- 指導技術の工夫やメディアの活用を推進し、生徒の実態に即した授業の充実に努める。
- 外部講師による講演会を取り入れる。
- 課題改善開発、研究授業等を実践し、小中一貫教育の推進を図る。

評価活動の工夫

- 各授業において、自己評価を積極的に取り入れ、生徒の評価能力を高める。
- 補助簿の作成・活用を図る。
- 教科部会において、評価規準・評価活動について情報交換し、評価の客観性を高める。

家庭や地域社会との連携の工夫

- 教職員、生徒の地域活動への参加を推進し、相互交流を図る。
- 総合的な学習の時間等に地域の人材を活用する。
- 教員、保護者による校門指導や下校時の見回りを充実させ、生徒の登下校時の生活習慣を身につけさせる。